

#編集部に届いた特集関連本



「地域に生きて」 親亡き後の支援を考える 看取りまでできるか

あおぞら共生会 明石邦彦、明石洋子＝編

本体 1,800 円＋税／A5 判・180 頁／ぶどう社／2020

社会福祉法人「あおぞら共生会」（神奈川県川崎市）は、重度の自閉症で超多動の長男・徹之さんの母・明石洋子さんによって、ボランティアグループとして1989年に設立された。「合理的配慮」のもと川崎市の公務員として立派に勤めている徹之さんも、今では47歳。今、明石さん夫婦が案じているのは、“親亡き後”のことだ。現在、川崎市内に13事業所を構え、発達障害をはじめとする障害のある人に、地域生活支援や就労支援などのさまざまなサービスを提供、「親亡き後」も地域で生きる」を可能にする仕組みづくりに取り組んでいる。その30年の軌跡を振り返った本書には、発達障害のある子のプライマリ・ケアへのヒントと希望が詰まっている！